

(別紙様式)

都道府県番号	22
都道府県名	静岡県

( )  
該当する観点にチェックをすること

・学校名及び規模

福田町立福田小学校										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	5	4	5	4	5	5	1	29	37	
児童数	163	148	172	155	163	189	6	996		

・実践研究の概要(主題(テーマ)及び設定の趣旨)

<p>・主題(テーマ) 「対話」を深め 自分の学びを育てる子</p> <p>・テーマ設定の趣旨 仮説 4つの「対話」(「ものとの対話」、「友達との対話」、「教師との対話」、「自分との対話」)を繰り返すことによって、学習内容がその子の腑に落ちていくのではないか。 算数少人数指導の在り方を追究することで、指定3項目に迫ることができるのではないか。</p>
--

・実践研究の内容について(選択した観点を中心に記述)

( ) 研究体制の工夫

- (1) 研究推進委員会(校長、教頭、教務、研修主任、各学年1名)で「教師の力量向上」を図る研修体制を構築。
- (2) 日課表の工夫
- (3) 授業以外の諸活動に「なっとくタイム」「サマースクール」「家庭学習」の見直し
- (4) 毎月発行の学年(学級)だよりに「学力向上フロンティアコーナー」を設けて、保護者の一層の理解と協力を得ている。

( ) 実践研究の内容

(1) 実施学年・教科

国語：全学年 TT 指導(但し、1学級当たり週1時間程度)

前年度の本校の課題を解決するため、また、基礎教科であると捉え実施した。

算数：3学年から6学年で次の表のように少人数指導を実施した。

子供の理解や内容の定着に差がでやすい教科であるため実施した。  
教科及び少人数指導・TT 指導については、研究「指定」されているものである。

学年	算数少人数指導グループ編成の仕方
3年	2・3組を4グループの習熟度別編成 4・5組を3グループの習熟度別編成
4年	2組を3グループの習熟度別編成 4組を3グループの習熟度別編成
5年	2・3組を5グループの習熟度別編成 4・5組を3グループの習熟度別編成
6年	2・3組を5グループの習熟度別編成 4・5組を3グループの習熟度別編成

## ( ) 成果と課題

### (1) 成果

- ・「確かな学力」を観点として日課の見直し・工夫をすることができ、本校の特色ともなった。
- ・「授業の基礎・基本」研修会や全員授業研等によって、研修の日常化につながった。
- ・子供賛歌集（福田っ子賛歌集）によって、児童の実態把握（みとり）を基に授業展開の工夫を図る意識が高まった。また、実践を読み合うことで、授業のヒントとなっている。
- ・「発展」の位置づけを、内容面と思考面の2側面から捉えることで、日常的に「発展」を行う意識が高まっている。思考面の発展の進め方もいくつかのパターンが見られ始めている。
- ・少人数指導「補充コース」では、「学級」では意欲の高まりが図りにくかった子たちの意欲も高まっている。
- ・「地域との連携を深める会」によって、地域・保護者の理解を得ることにつながった。
- ・学校評価アンケートでも、「先生は分かりやすく教えている」が84%などよい評価を得ている。

### (2) 課題

- ・効果があったのかを数値的に評価していく方法、及び評価の日常化に課題がある。「個票」等を用いて、評価の簡略化を図っても、時間的なゆとりのなさ、アンケート等の煩雑さも課題として残っている。
- ・「学級」とは別の集団における人間関係づくりにも課題がある。見方を換えれば、生活集団としての「学級」のよさを指摘できる。
- ・習熟度別編成を基本としているが、家庭の理解を図ることも大きな課題である。習熟

度別と言いながらも、希望を優先しながらの編成とならざるを得なかった。

・まだまだ家庭学習の習慣化などの面で低い数値（50％）である。

（ ）成果の普及方策

（ 1 ）磐周地区説明会

11月7日、磐周教育研究所、小中学校89校に対して本校の取組を説明

（ 2 ）西部地区教務主任者会

11月19日、静岡県総合教育センター、小中学校224校に説明

（ 3 ）地域との連携を深める会

保護者・地域に対して「学力向上フロンティアスクール」の説明会

（ 4 ）「福田っ子賛歌集」の作成と配布（保護者、西部地区全小中学校、関係者）

（ 5 ）「学力向上フロンティア福田小プラン - 第1年次の歩み - 」の関係者への配布

（ 6 ）平成15年度：11月下旬に授業公開予定

（ 7 ）ホームページによる発信 (<http://www.wbs.ne.jp/cmt/fukude-es/>)

（ ）その他（その他、特色ある取組がある場合に記入）などを記述

（ 1 ）アクションプランの作成

（ 2 ）全教科前単元の評価規準の作成

（ 3 ）指導と評価の一体化としての「個票」の活用

（ 4 ）個に応じた指導のための教材開発